

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

#### ▲注意

…取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

#### ▲注意

- 引戸**
- 本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。
  - 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因につながります。
  - 建付け調整(丁番による調整)時、枠側丁番の固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。


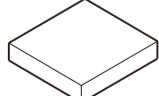

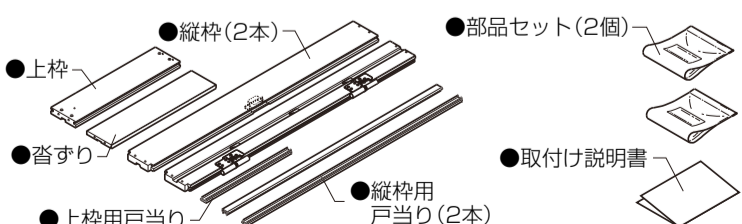
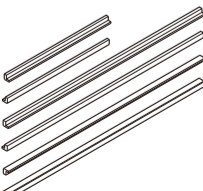
### ■取付け上のおお願い

- 共通**
- 本製品は、壁厚111～141mmに取付けられます。
  - 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
  - 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
  - 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
  - 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
  - 造作材・建具枠の下地材には、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
  - 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
  - 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
  - 枠の取付け時には、ゆがみ・ねじれなどのないよう(特に中縦枠)注意してください。
  - 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 引戸**
- 片引きの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けしてください。
- ドア**
- 丁番は指定のねじで締め付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
  - ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
- かい木には、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
  - 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
  - 本体は落下させたり、立てかけるときに衝撃を与えないでください。戸車部の樹脂部品がキズ付き、開閉に支障をきたす原因になります。
  - 運搬・加工の際は、キズ付けないように取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
  - 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買求め店までご連絡ください。(取付け後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
  - 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
  - 軽量鉄骨に直接取付ける場合は、同梱のねじでは取付けできません。現地にて鉄骨までかかる長さのねじを手配してください。
  - 建具を取り付ける床の精度は±2mm以内としてください。
- 気流抑制部品の取付けは、指定の位置に、同梱のねじを使用して固定してください。本体下端部の戸車にねじが干渉すると開閉に支障をきたす原因になります。
- 本製品は気密性を高めているため、ドアにて第3種換気に適合するすき間が確保できません。計画換気については第1種換気での取付けをおすすめします。
  - 下部の気密材(パッキン)が折れ曲がるほど抵抗を与えないよう、閉めた時に沓すり面から気密材(パッキン)上端までが12.5～15mmの範囲内となるよう調整してください。パッキンが切れるおそれがあります。

### ■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。  
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

### ■部品・部材の明細

本体	ハンドルセット	錠セット	4方枠(図はドアの例を示します)	ケーシングセット
	 ※ドアの場合			

本体		ドア	片引き	引違い
本体	本体	1梱包×1	1梱包×1	1梱包×2
枠	上枠・鴨居	1	1	1
	上レール	—	1	1
	縦枠	2	1	2
	中縦枠	—	1	—
	小縦枠	—	1	—
	幅木	—	1	—
	戸当たり	縦2・上1	2(錠付きの場合3)	4
	枠用部品セット	1	1	1
	ツバなし(薄/厚)沓すり・敷居	1	1	1
	ケーシングセット	上:2、縦4	横:2、縦4	横:2、縦4
本体丁番ねじセット	皿タッピンねじφ4×20:8本	—	—	
ハンドルセット		ドア	片引き	引違い
ハンドルセット		1組	—	—
台座セット		1組	—	—
ハンドル固定ねじ		1本	—	—
錠セット・引戸錠セット		ドア	片引き	引違い
錠セット		1組	1組	1組
気流抑制部品セット		ドア	片引き	引違い
V片引標準		—	1組	—
V引違2枚		—	—	1組
枠用部品セット		ドア	片引き	引違い
組立て用皿小ねじM4×50		8	9	8
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50		—	5	5
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50		9	6	6

## 開口部の作り方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。

	薄沓すり / 敷居	厚沓すり / 敷居
開口寸法 A	製品寸法 W+10mm	
開口寸法 B	製品寸法 H+床厚+5mm	製品寸法 H+5mm

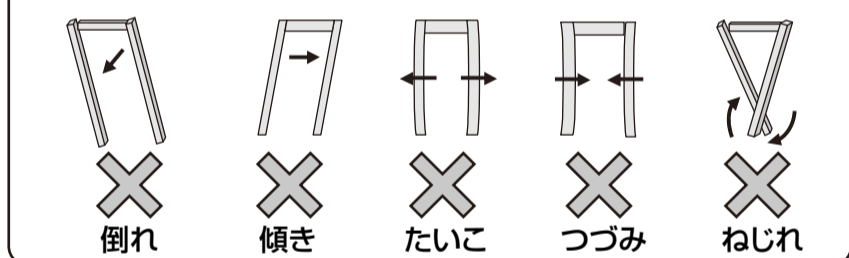
## 枠とケーシングの組合せ

(単位:mm)

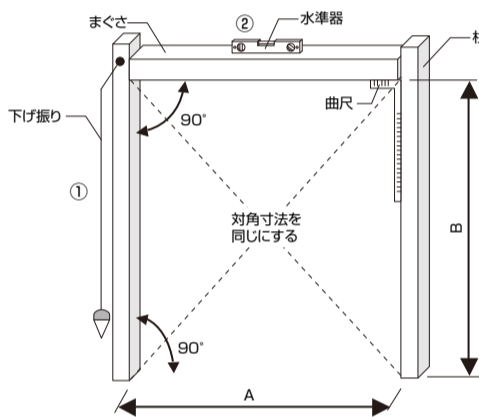
	ケーシング (足寸法)	対応壁厚
薄壁用	8	111~121
	14	122~133
	19	134~141

- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。  
②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

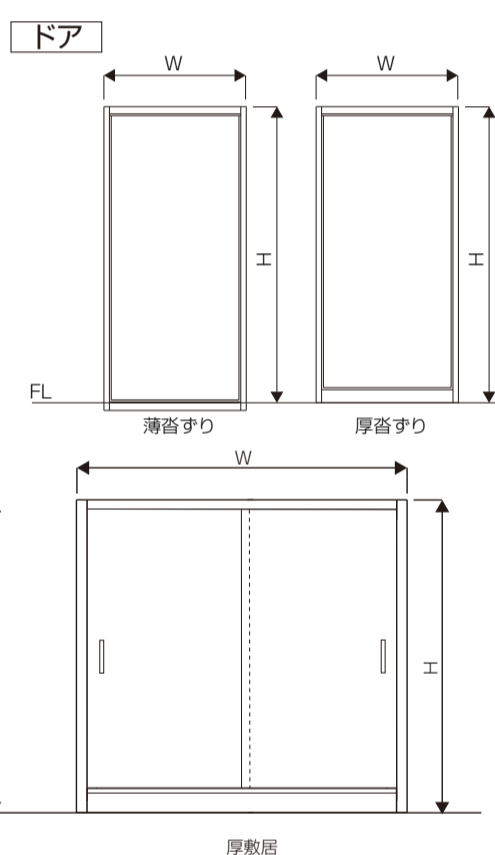
※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



## 開口寸法



## 製品寸法

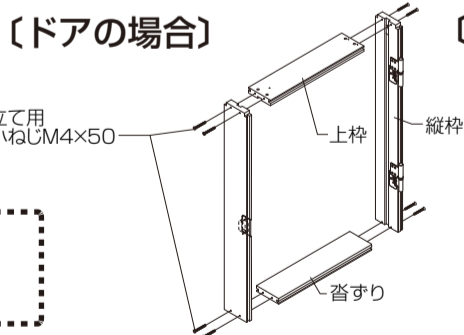


## 取付け順序

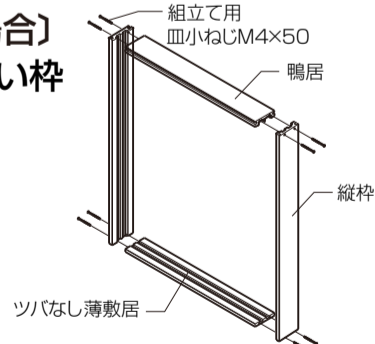
### 1 枠の組立て

●右図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。

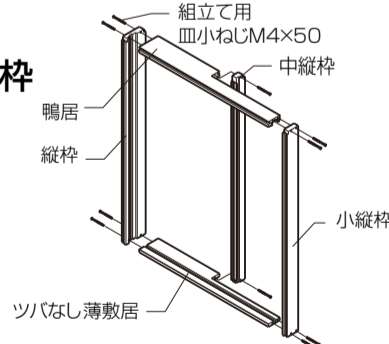
●お願い  
※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。



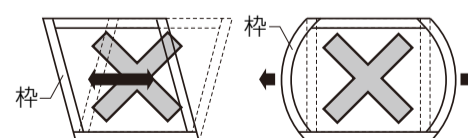
### 2 引戸の場合 ●引違い枠



### ●片引き枠

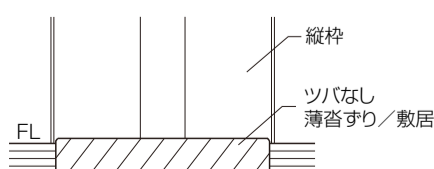


- お願い  
※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。  
※ねじは、たたき込まないようにして下さい。保持力低下などの原因となります。  
※枠組立て後、揺らす・引張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。

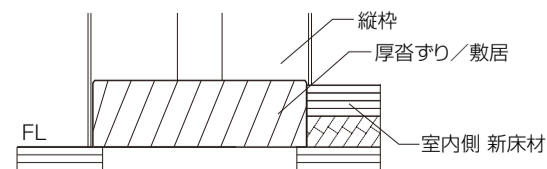


●枠の取り付け後、右図のように縦枠・沓すり/敷居にそって床材を張ってください。

### 薄沓すり/敷居納まり

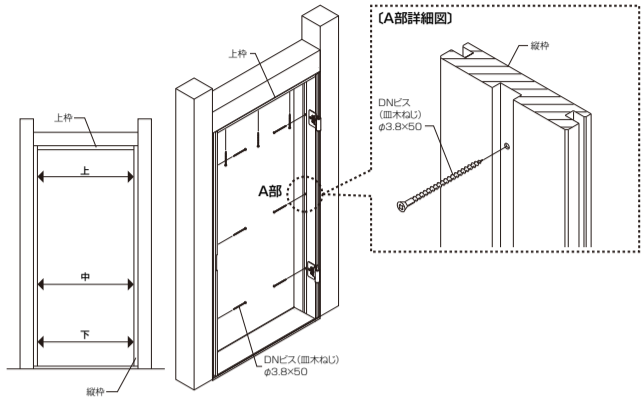


### 厚沓すり/敷居納まり



## 2 枠の取付け

- ① 枠を開口部に入れ、枠の垂直を確認した後、仮固定します。
- ② 開口寸法(W方向)が上・中・下の個所で揃っていることを確認した後、本固定します。

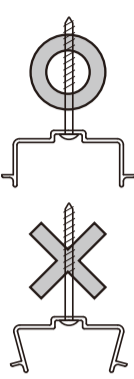


## 【引戸の場合】

開口部と、縦枠・(中縦枠・小縦枠)・上枠との間にかい木を入れて取付けます。

### 枠取付け上のお願

- ※片引きの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。
- ※鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

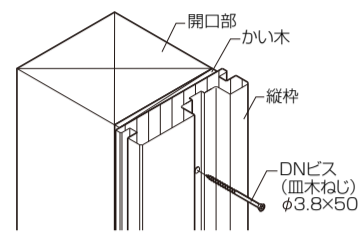


### ●鴨居

※鴨居はトラスタッピン ねじφ4×50で固定してください。

### ●縦枠・小縦枠

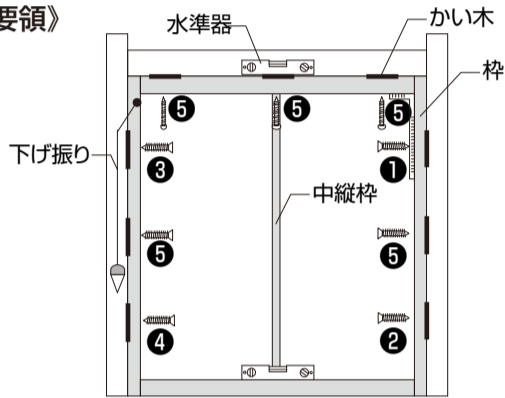
※DNビス(皿木ねじ) φ3.8×50で固定してください。



### お願い

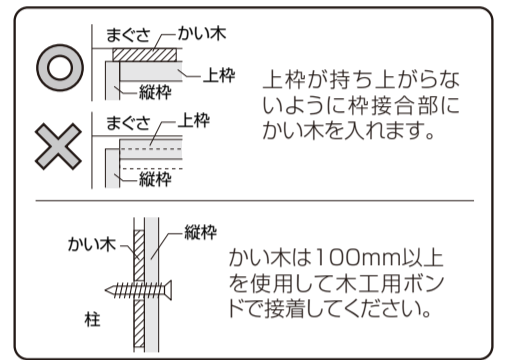
※枠の倒れ、傾き、たいこ、つづみ、ねじれがないように取付けてください。

### 《取付け要領》



※中縦枠が曲がらないように注意してください。

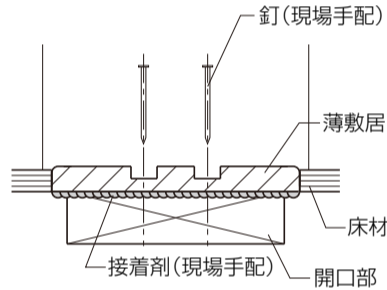
- ① 枠を開口部にはめこんで、下枠・上枠の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
  - ② 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
  - ③ 水準器で下枠・上枠の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
  - ④ 下げ振りを使って垂直・倒れがないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
  - ⑤ 枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



## 【引戸の場合】

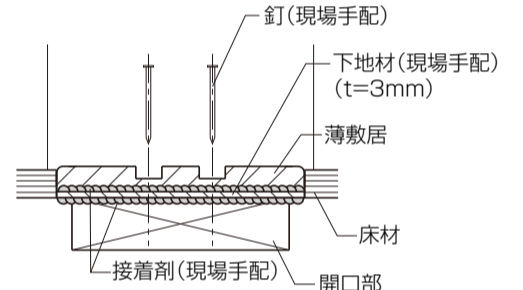
### ●床材厚さ12mm

- ※必ず薄敷居に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。
- ※釘は端部より100mm離し、450mmピッチで接着剤(現場手配)と併用して取付けてください。



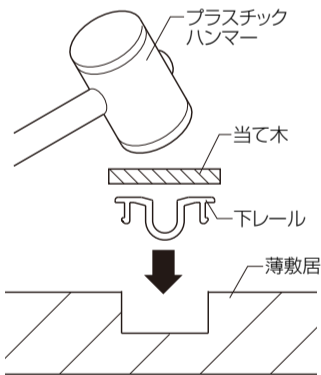
### ●床材厚さ15mm

- ※必ず薄敷居と下地材に接着剤(現場手配)を付け、躯体に固定してください。

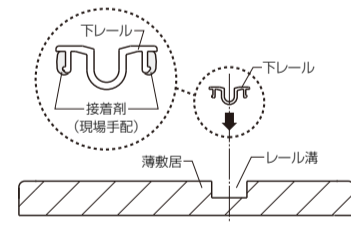


## 3 下レールの取付け

- 敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。

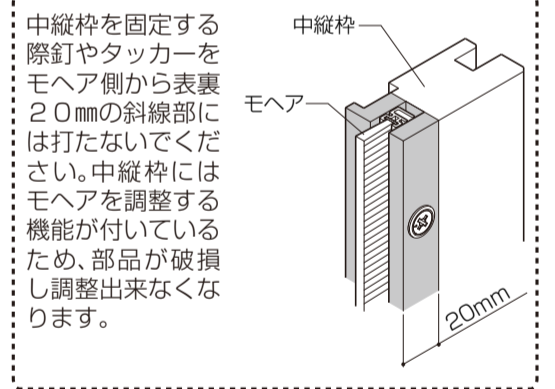
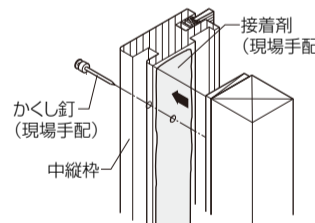


※接着剤(現場手配)は、レール溝にガタのある場合に使用してください。



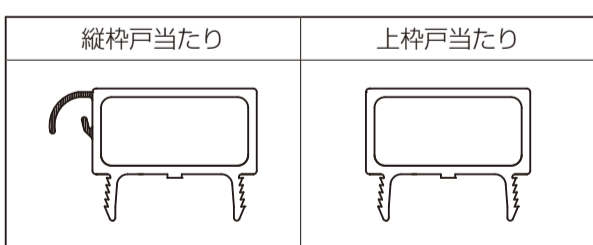
### ●中縦枠の固定

- ※裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、かくし釘(現場手配)で固定します。

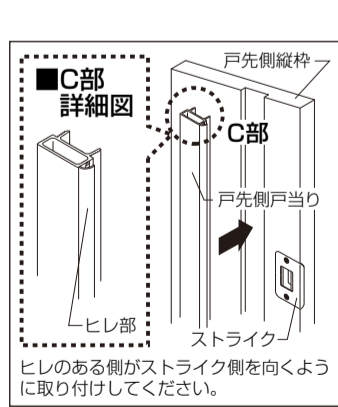
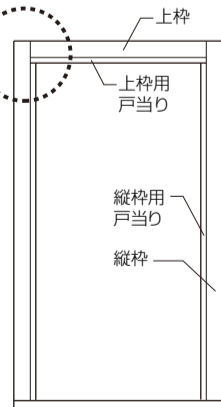
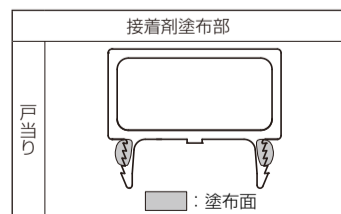
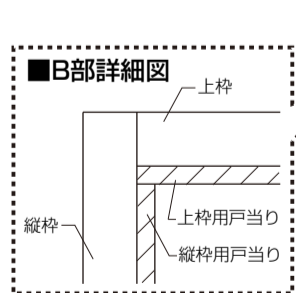


中縦枠を固定する際釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、部品が破損し調整出来なくなります。

## 4 戸当りの取付け (ドアの場合)

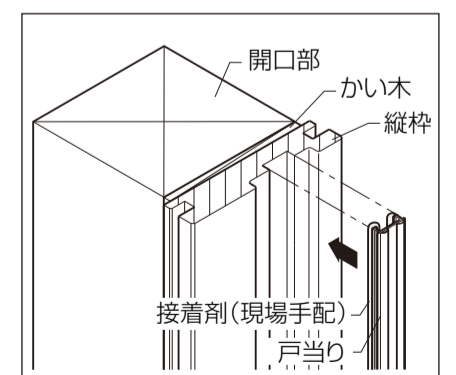


- ① 現場で戸当りの寸法を合わせて切断してください。
  - ② 戸当りの足の外側(リブのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください(塗布面は下図参照)。接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ずふきとってください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。



ヒレのある側がストライク側を向くように取り付けてください。

## (引戸の場合)



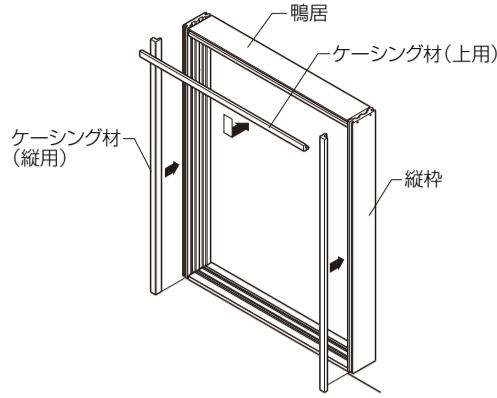
### お願い

※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。

### 5 ケーシング材の取付け

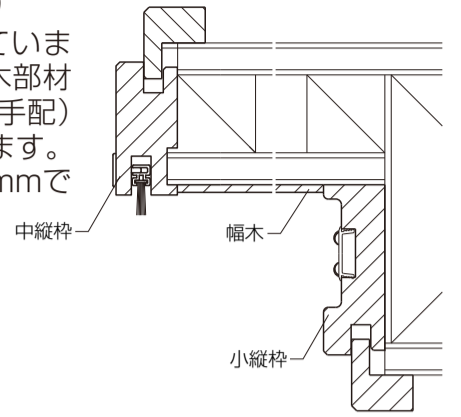
※壁材・床材を仕上げからケーシング材を取付けてください。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。



### 6 幅木の取付け (片引戸の場合)

※片引き用枠には、幅木が同梱されています。必要に応じてご使用下さい。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤(現地手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200~300mmです。



### 7 ドア本体の取付け

- ①ドア本体に本体側丁番を皿タッピンねじφ4×20(枠側丁番にテープ止め)で取付けます(C・C'部)

※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、ドア本体の上下を確認してください。

- ②枠側上丁番のレバーを止まるまで下げます。(D部)

※枠側上丁番の下部から軸が出てきます。

※レバーが動かなくなるまでしっかりと下げてください。

- ③本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(E部)

- ④本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。

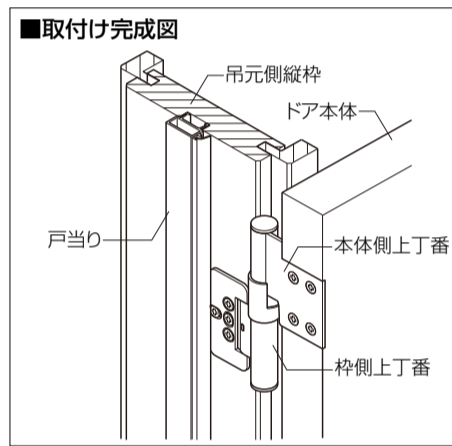
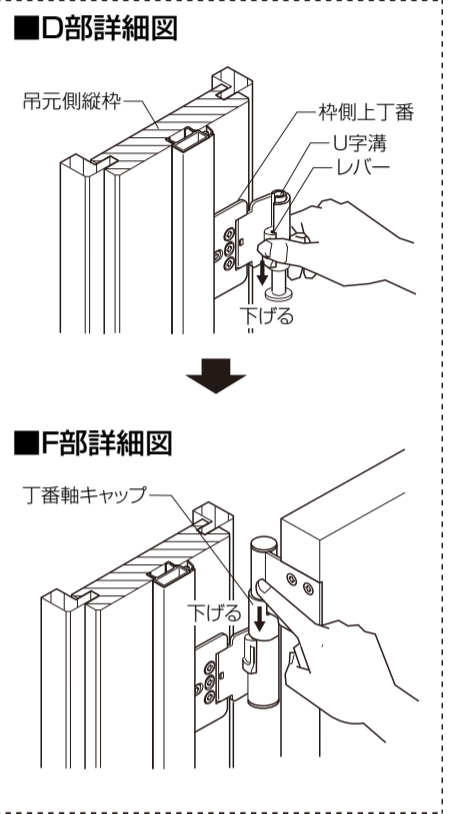
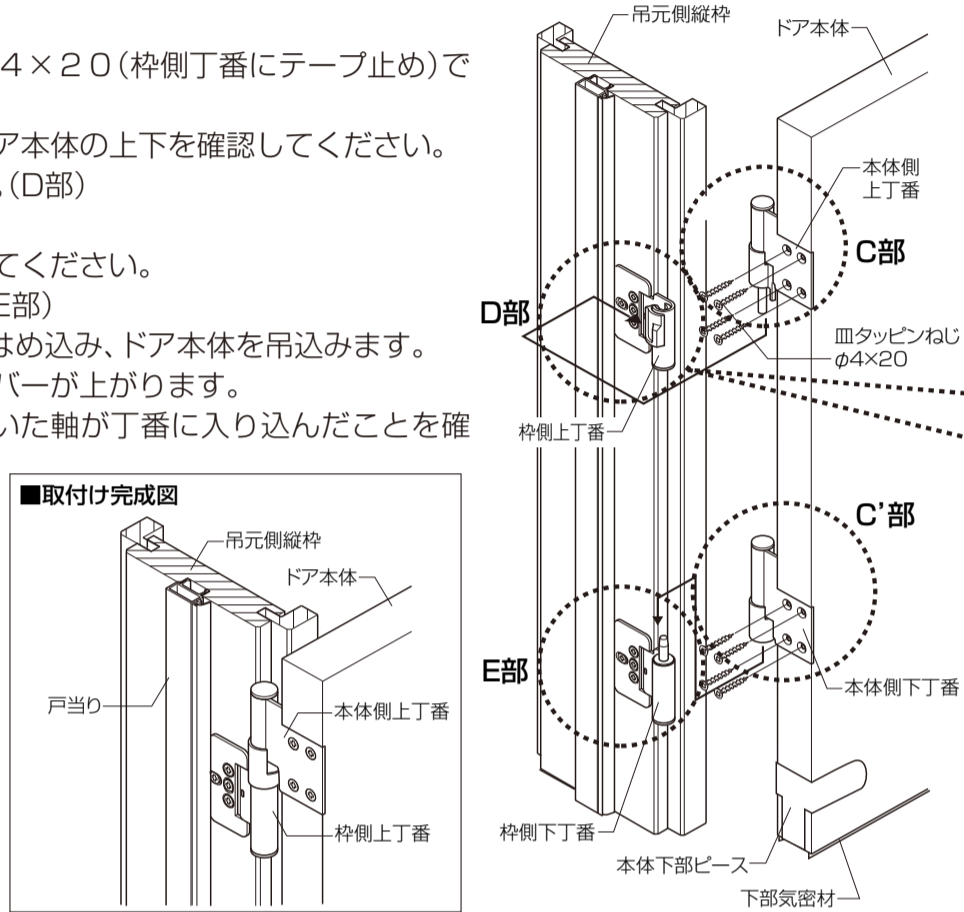
※扉側丁番の軸が枠側丁番に入ると自動でレバーが上がります。

※「カチャリ」とレバーが上がり、とび出していた軸が丁番に入り込んだことを確認してください。

- ⑤丁番軸キャップを手で下げてください。(F部)

※パチンとはまるまで確実に下げてください。

- ⑥本体下部ピースを取外してから、扉を閉めてください。

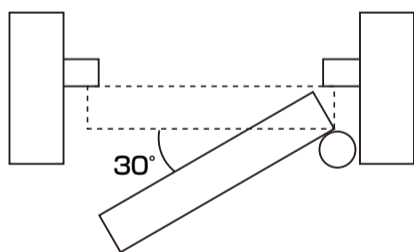


### ▲注意

- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因につながります。
- 建付け調整(丁番による調整)時、枠側丁番の固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

お願い

※本製品は防音性能をあげるため、本体自体が開閉時に3mm上下します。そのため本体が0~30°の範囲内においては扉が自動的に閉まりますので、ご注意ください。他材との接触などにより建具破損の原因となります。



お願い

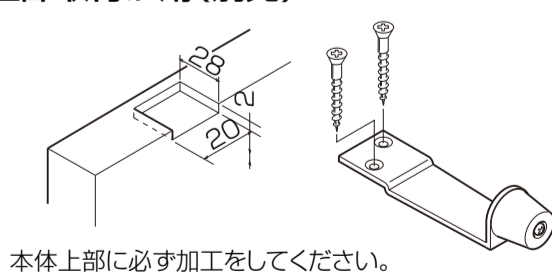
※本体を保管する際は下記の状況にあたる場所には置かないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・昼夜などで温度差の激しい場所
- ・湿気の多い場所 本体のソリ・ねじれなどの原因になります。

※長期にわたる本体の立て置き保管はせずに寝かせた状態での保管としてください。本体のソリ・ねじれなどの原因となります。一時立て置き保管をする際は、下部気密材保護のため、ドア本体下部の下部ピースは取付けておいてください。

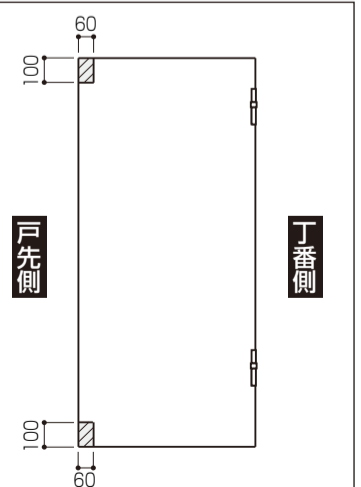
### 8 オプションドアストッパーの取付け

#### ■本体上部取付け用(別売)



#### 【本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲】

《市販のドアストッパーを取付けする場合》  
 ※下図の斜線範囲内にドアストッパー本体又は、キャッチを取付けてください。(他の箇所は芯材が入っていないため取付け出来ません。)  
 ※取付けにあたっては、下穴をあけて手回りで固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締付けると、空回りすることがあり

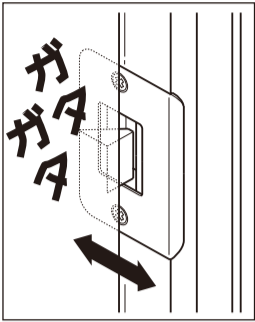


ドアの場合

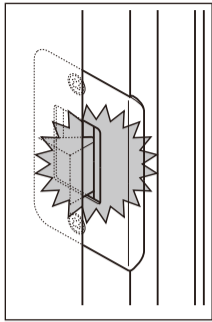
■建付け調整(ストライクによる調整)

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

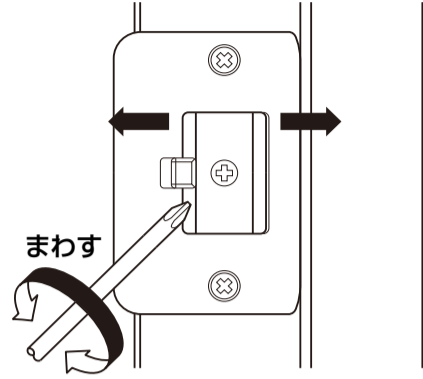
■ラッチがストライクの中でガタつく



■ラッチがかからない



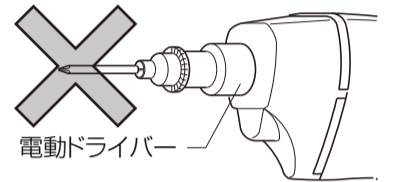
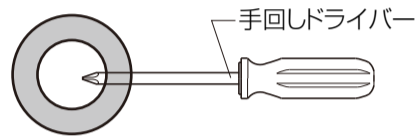
ストライク調整ねじ  
可能調整範囲±3mm



■建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



**上下の調整**

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上側に4mm、下側に5mmです。

**不具合例**

1. ドアの上部が枠に当たる。

**調整方法**

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。

**不具合例**

2. ドアの下部が枠に当たる。

**調整方法**

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。

**左右の調整**

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、開き側に1.5mmです。

**不具合例**

1. ドアの開き側が枠に当たる。

**調整方法**

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

**不具合例**

2. ドアの開き側のすき間が大きすぎる。

**調整方法**

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。
- ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

**下部気密材 納まり(縦断面)**

12.5~15

12.5未満

お願い

下部の気密材(パッキン)が折れ曲がるほど抵抗を与えないよう、閉めた時に沓すり面から気密材(パッキン)上端までが 12.5~15mmの範囲内となるよう調整してください。パッキンが切れるおそれがあります。

※15mmは沓すり面から気密材(パッキン)先端が1mm浮いた状態を示します。

### 前後の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(3mm)、後(1mm)です。

### 不具合例 1. 開き側の枠が前に出ている。

調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。

### 不具合例 2. 吊元側の枠が前に出ている。

調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。

## 引戸の場合

### ■ 建付け調整

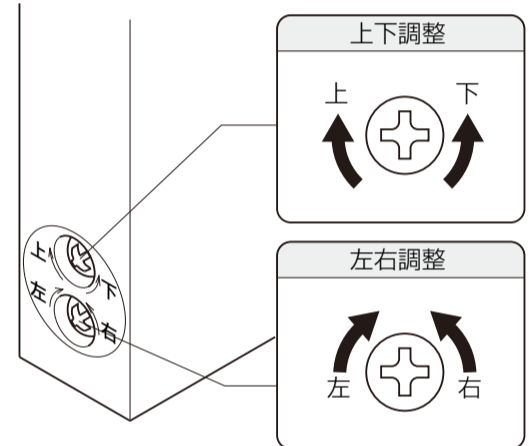
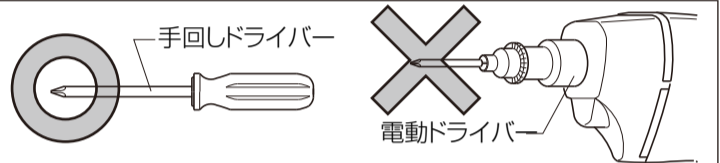
#### 〔上下調整(調整幅+4mm、-2mm)〕

- ※ 鴨居に5mm以上かかるよう調整してください。
- ① 本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ② 調整後、本体の鴨居へのかかりが5mm以上あるか、確認してください。

#### 〔左右調整(調整幅±2mm)〕

本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。

※ 建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。  
 ※ 電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。

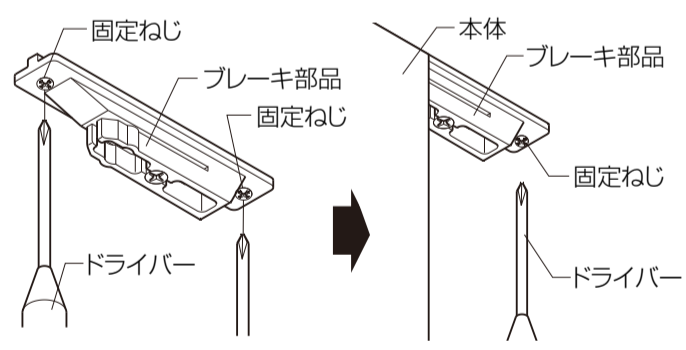


### ▲ 注意

- 本体と鴨居へのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

#### 〔ブレーキの左右調整〕

本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、下図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。

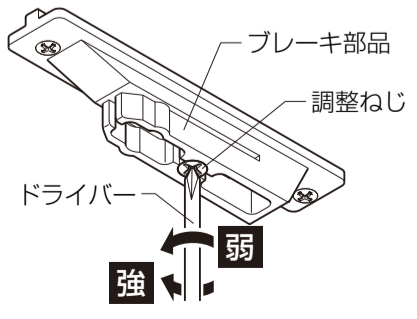


#### 〔ブレーキ力調整〕

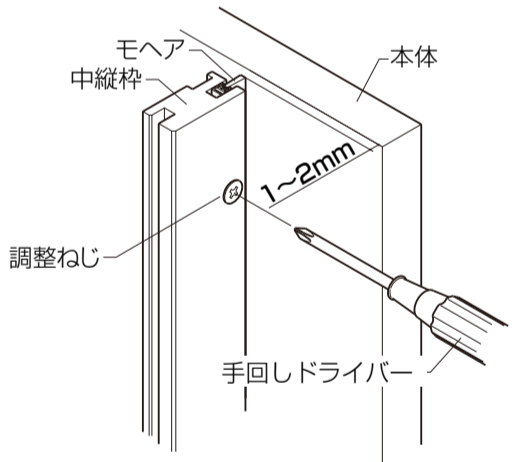
上レール内側に付いているブレーキ部品の調整ねじで、ブレーキ力を調整してください。

..... **ブレーキ力調整上のお願い** .....

※ 調整ねじを弱方向に回す場合は、ブレーキの表面よりねじ頭を1.5mm以上出さないように調整してください。



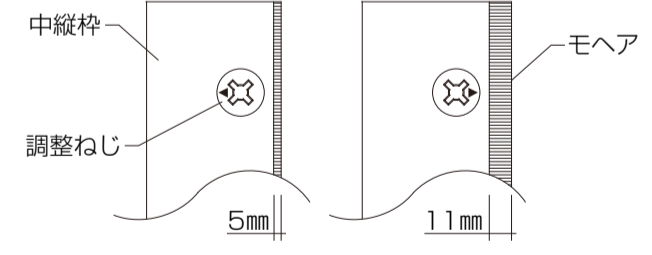
#### 〔中縦枠の調整〕(調整代+6mm)



※ 本体とモヘアのすき間が1~2mm程度になるように調整してください。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

- ① 中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ② 調整後、本体とモヘアの先端が1~2mmのすき間が確保されているか確認してください。

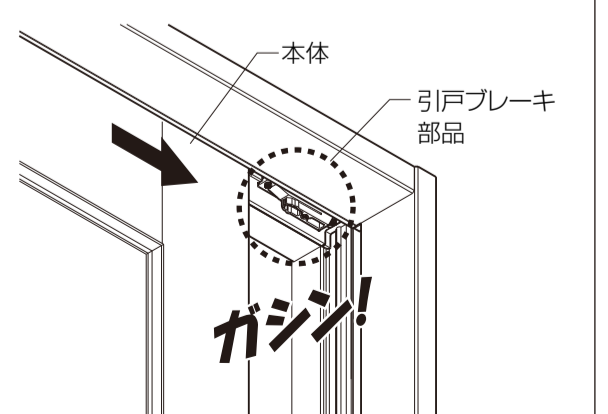


#### ● 片引き・引分け

本体と中縦枠モヘアが接触しすぎると、開閉が重くなります。

調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

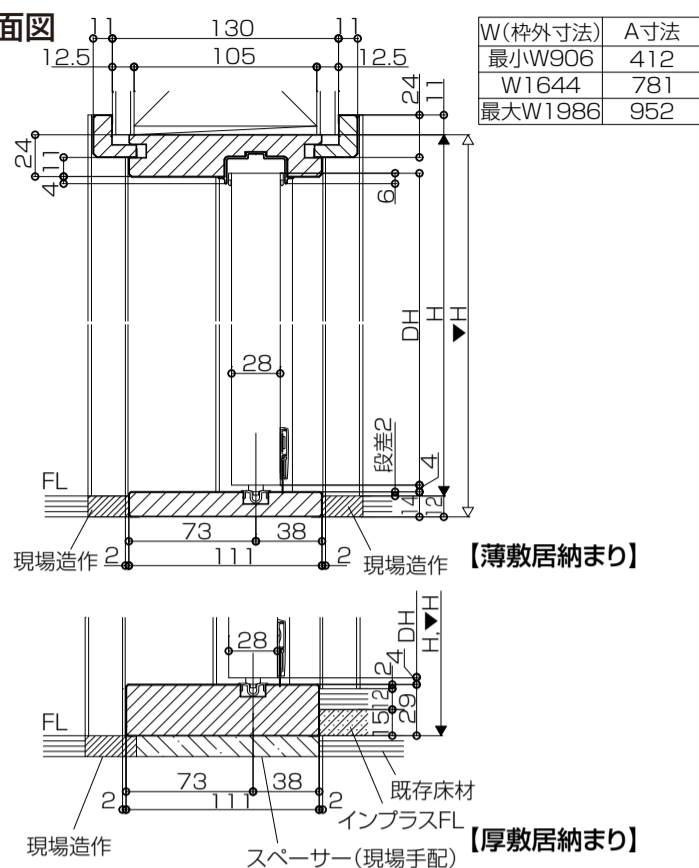
- 本体がブレーキ部品にあたる時は、上下調整ねじを回して本体を下げてください。



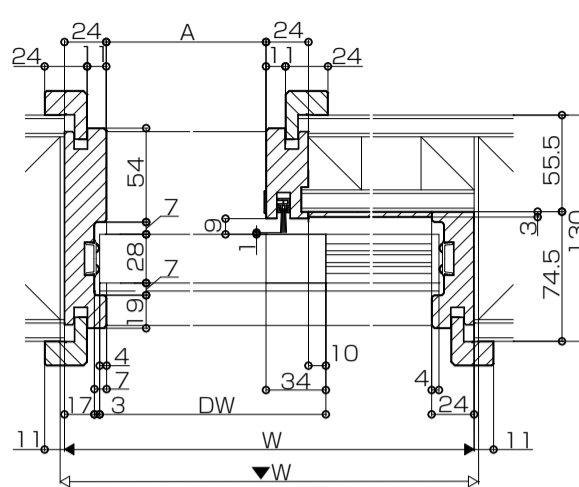


## ■室内引戸 Vレール方式 片引き戸 ケーシング付

### ●縦断面図



### ●横断面図



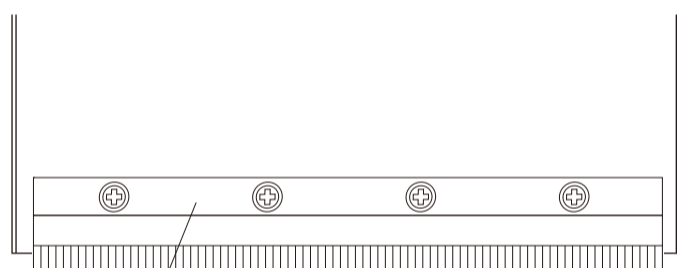
## ■気流抑制部品の固定方法と調整方法

### 【固定方法】

気流抑制部品セットに同梱されている取付け説明書に従って取り付けてください。

### 【調整方法】

- ①取付け後、調整のためカバーをはずす際、ベースが折れ曲がらないよう指で押さえながらカバーを端からゆっくり外してください。
- ②手回しドライバーでねじを緩め、気流抑制部品ベースを手で微調整してからねじを緩みなく(増し締めはしないでください)締め直してください。



気流抑制部品ベース

お願い  
本製品のねじ締めには、手回しドライバーを使用し、電動ドライバーは使用しないでください。ねじ頭が壊れたり、本製品の割れ、浮きを生じさせる原因となります。

- ③気流抑制部品セットに同梱されている取付け説明書に従い、ベースの長さに対して両サイド均等に2mmずつ出るようにカバーを取り付けてください。